2021-2022
ANNUAL REPORT

Beyond the Border,
Create the Future.

CROSS FIELDS

「社会課題が解決され続ける世界」の実現へ

いま世界で起きている変化を乗り越えるために必要なのは、
人々がつながり、社会課題を自分事として捉え、
解決に向けた一歩をそれぞれが踏み出す事です。

創業10年の節目を迎えたクロスフィールズは、
「社会課題が解決され続ける世界」の実現に向けて
大きく舵を切り始めます。

Our Vision 目指す世界

> 社会課題が解決され続ける世界

Our Mission 果たすべき使命

> 社会課題を自分事化する人を増やす

> 課題の現場に資源をおくり、
> ともに解決策をつくる

Message 代表メッセージ

「新たなビジョンを掲げ、次の10年も挑戦を続けます」

共同創業者・代表理事

小沼 大地

1年以上をかけたリブランディングのプロセスを経て、クロスフィールズは新たなビジョンとミッションを掲げました。支えてくださるすべての方々への感謝の気持ちを胸に、これからは「社会課題が解決される世界」の実現に向けて挑戦していきます。

今年度は新規事業に更に力を入れるとともに、休止していた海外事業がいよいよ本格的に再開する見込みです。充実した1年になるよう、チームメンバーで力を合わせて進んでいきます。応援のほど、よろしくお願いいたします。

ビジョン・ミッション刷新と10年目の新たな挑戦

ビジョン実現に向けた私たちの戦略

私たちはビジョン達成に向けて2つのアプローチを設定しました。1つは社会課題を自分事化する人の数を増やしていく「**人へのアプローチ**」。もう1つは課題の現場において様々なステイクホルダーとともに解決策を生み出す「**課題へのアプローチ**」です。右の図ではこれらを横軸で示しています。縦軸にはインパクトの出し方として、事業を拡大・拡散する「**Scale Up/Out**」、そしてインパクトを深める「**Scale Deep**」をおきます。

今後挑戦していく事業領域

これらのアプローチを元に、3つの事業領域を創出しました。強い原体験でリーダー人材を育む"**Empower**"、多くの人に社会課題を自分事化する機会を届ける"**Cultivate**"、そして課題の現場へリソースを届けて解決策をともにつくる"**Co-Create**"です。これらの3つの事業領域にて、私たちは挑戦を続けていきます。

Member's voice

広報/マーケティング統括
西川 理菜

ビジョン・ミッションの刷新をはじめとした一連のリブランディングを担当しました。10年目のタイミングで改めて問い直した「クロスフィールズにしかできない価値の出し方」や「本気で挑戦したい事業領域」など、コロナ禍で向き合い続けた問いへの解が凝縮されたものになったと感じています。ビジョンを掲げるだけではなく、一歩ずつ、しかし着実に実現に向けた変化を生み出していきたいです。

企業パートナーシップ統括
荒井 淳佑

創業から10年が経過。新たなビジョン・ミッションを掲げるプロセスで感じたことは、「私たちの歩みを支えてくださる方々への感謝の想い」と「新たなゴールに向かう私たちの決意」でした。私たちだけでは到底、実現することができない目標を掲げられたのは、皆さんとのパートナーシップを軸に考えられたからこそです。これからも皆さんと手を携えながら、新たな社会を切り拓いていきたいです。

より広く拡大／拡散

Scale Up/Out

CULTIVATE

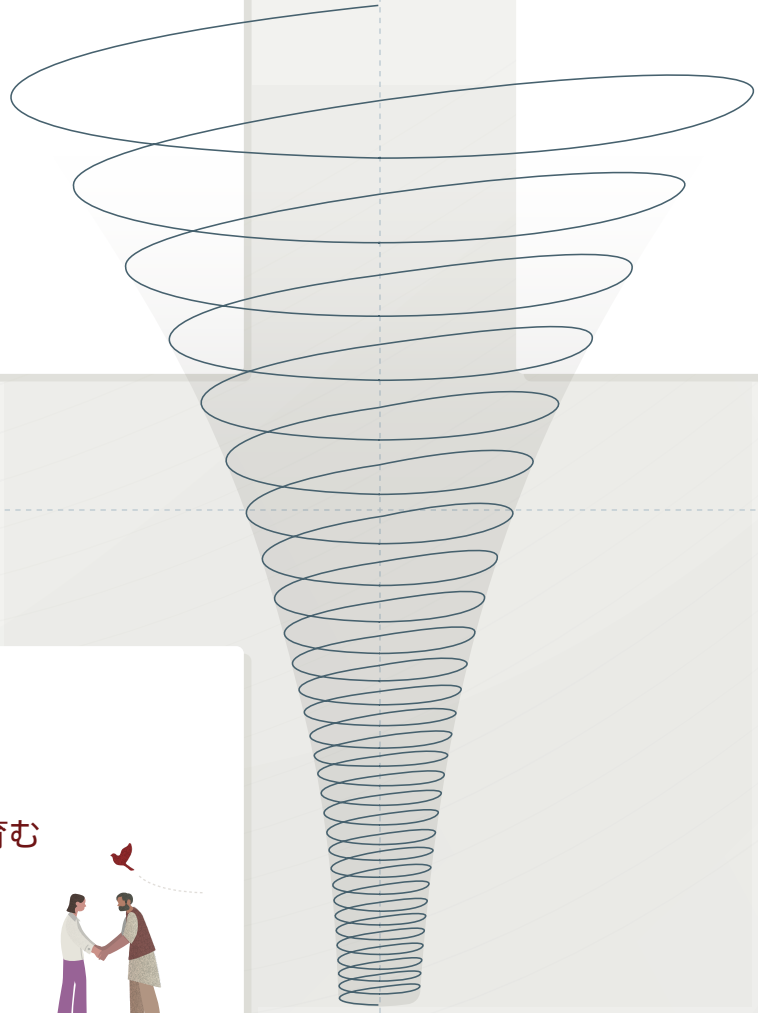
社会課題を自分事化する人を増やし、社会の土壌をつくる

「共感VR」など、社会課題に触れる機会を幅広い層に届け、社会課題を自分事として捉える社会の土壌を耕す事業

CO-CREATE

課題の現場に資源をおくり、解決策をともにつくる

課題の現場に適切なリソースを提供し、社会課題の解決に挑むステークホルダーとともに解決策を生み出す事業



社会課題を自分事化する人の数を増やしていく

人へのアプローチ

課題の現場において様々なステイクホルダーとともに解決策を生み出す

課題へのアプローチ

EMPOWER

社会の未来を切り拓くリーダーを育む

「留職」「フィールドスタディ」など、課題の現場での圧倒的な原体験を届け、社会課題の解決を牽引するリーダーを育む事業

より深く突き詰める

Scale Deep

詳細はWEBサイトから

NEW VISION 特設サイト

https://crossfields.jp/10th/

代表・小沼大地のnote

https://note.com/daichi0715/

Program Reports

事業報告

クロスフィールズは創業から10年の間で、
「働く人」と「社会」をつなぐ様々な事業を展開してきました。
留職では230人以上、フィールドスタディでは1,000人を超える方々が参加。
多くの「働く人」に社会課題との接点と、
解決に向けた行動のきっかけを提供してきました。
共感VRなどの新規事業も、さらなるインパクト創出に向けて試行錯誤を続けています。
続くページからは、各事業の概要と2021年度の活動実績をご紹介します。

留職派遣人数
Corporate Volunteering Program

230人以上

フィールドスタディ参加人数
Social Issue Understanding Field Study

1,000人以上

01 留職プログラム
Corporate Volunteering Program

02 社会課題体感フィールドスタディ
Social Issue Understanding Field Study

03 社会課題解決ワークショップ
Social Business Creating Workshop

04 共感VRワークショップ
Empathy VR Workshop

05 ソーシャルセクター支援
Social Sector Empowerment

01 留職プログラム

Corporate Volunteering Program

EMPOWER領域

留職プログラム

企業の社員を国内外のNPO/NGOや社会的企業に数か月〜1年にわたって派遣し、本業のスキルを活かして社会課題の解決に取り組むプログラム

（2022年度より新興国派遣が再開しております）

2021年度までの活動実績（累計）

派遣人数	234 人
企業数	43 社
パートナー団体数	135 団体

事例紹介

損保ジャパン ／ RICCI EVERYDAY 国内派遣

損保ジャパン社員がRICCI EVERYDAYにて9ヶ月にわたり活動。ウガンダの女性が作るライフスタイル商品を販売する同社にて、生産フローの改善やマーケティングを担当しました。

詳しくはこちら
https://note.crossfields.jp/n/nea0715dc4ad8

スマホからはこちら

ハウス食品 ／ マザーハウス 国内派遣

ハウス食品の研究者が「途上国から世界に通用するブランドをつくる」を理念に掲げるマザーハウスに留職。「食」をテーマに商品開発から製造・販売まで、事業全体に携わりました。

詳しくはこちら
https://note.crossfields.jp/n/n11a713018c48

スマホからはこちら

損保ジャパン ／ エコロギー 国内派遣

留職者が受け入れ側になった事例も。食用コオロギの生産・販売に取り組むエコロギー代表・葦苅さんは2019年に留職プログラムfor Future Change Makersに参加。2021年には損保ジャパンより留職者を受け入れ、事業の加速に繋がったと振り返ります。

詳しくはこちら
https://note.crossfields.jp/n/na6ebb2a77ea9

スマホからはこちら

Member's voice

事業副統括マネージャー
法幸 勇一

コロナ禍で開始した国内派遣の留職プログラムが2年目に突入。パートナーの皆様との関係性をより一層強化しながら、社会課題の解決に挑み続けた1年でした。今年度はコロナ禍で一時休止していた新興国への派遣を再開します。新興国派遣と国内派遣2つのプログラムを通して、国内外問わず社会課題解決を牽引するリーダーの育成に全力で取り組んでいきます。さらなる留職事業の進化を、どうぞご期待下さい！

事業の詳細はWEBサイトから

新興国留職プログラム
https://crossfields.jp/service/cvp/oversea/

国内留職プログラム
https://crossfields.jp/service/cvp/japan/

02 社会課題体感フィールドスタディ

Social Issue Understanding Field Study

EMPOWER領域

社会課題体感フィールドスタディ

国内外の社会課題の「体感」と現地リーダーとの対話を通じて、社会に対する鋭い感性とぶれない軸を育む短期集中型の役職者向けプログラム

現地訪問型　オンライン型

2021年度までの活動実績(累計)

実施件数	59件
参加人数	1,236人
実施企業数	39社

参加者の声

オンライン型

住友商事では現地訪問型と合わせて、オンライン型プログラムも導入しています。2021年にオンライン型プログラムに参加した徳永さんは、プログラムを通じて「社会の役に立つ事業を行いたい」という志を再発見。この志を周囲に共有したことで、チームにも変化が生まれていると振り返ります。

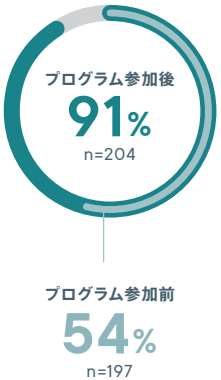
詳しくはこちら

https://note.crossfields.jp/n/n29d3aa73f46d

スマホからはこちら

参加者アンケート

社会課題に関心がある（プログラム参加後・参加前）

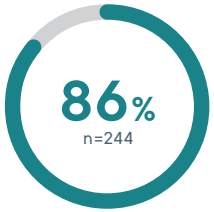


「他人事と思っていた社会課題が全て自分事へ変化し、自らの意志（志）で行動する勇気を頂いた。」

「以前は社会課題について問題意識を持つレベルであったが、どうすれば解決できるのか自身の中で考えるようになった。」

「社会課題への解決・貢献に対する覚悟が出来た。」

仕事への向き合い方が変わった（プログラム参加後）



「マネジメントに寄りすぎない 自発的フォロワーを増やすリーダーシップを意識するようになった。」

「与えられた仕事を漫然とこなすのではなく、志をもって、取り組みたいと思った。」

「自分の熱い思いや志を伝えるようにしたいと思う。」

Member's voice

ユニット統括リーダー

田熊 彩子

コロナ禍の落ち着きと共に現地訪問型のプログラムも徐々に再開し、現場で体感することのインパクトを再認識した2021年度でした。今年度は現地訪問型とオンライン型それぞれの強みを生かしながら、新たな団体との協業など、プログラムをさらに進化・拡大していきます。加えて「社会の未来を切り拓くリーダー」の育成に向けた、プログラムの新規開発など新たな挑戦も行っていきます。

事業の詳細はWEBサイトから

現地訪問型

https://crossfields.jp/service/fieldstudy/

オンライン型

https://crossfields.jp/service/fieldstudy-online/

03 社会課題解決ワークショップ

Social Business Creating Workshop

EMPOWER領域

社会課題解決ワークショップ

企業の社員がチームを組み、国内外で社会課題解決に取り組むリーダーと2-3ヶ月にわたり事業アイデア創出を行うプログラム

2021年度までの活動実績(累計)

実施件数	49件
参加人数	740人
実施企業数	18社

事例紹介

日立システムズが女川町を舞台にしたプログラムを実施

日立システムズは女川町を舞台にした3ヶ月のプログラムを実施。参加した20名の社員は、観光・医療・まちづくり・産業の4テーマでチームアップし、現地訪問や当事者へのインタビューを通じて女川町の課題を自分事としてとらえていきました。それを元に「女川町の未来とそれを実現するための事業アイデア」を創出しました。同社と女川町の取り組みはプログラム後も継続し、22年3月より地域活性化を目的とした協働プロジェクトが始動しています。

Member's voice

事業統括マネージャー

原田 悠子

昨年度はワークショップをきっかけに地域と参加企業の協業が生まれるなど、嬉しい動きも目にすることができました。そうした動きを見ていると、やはり起点は「人の想い」なのだと改めて感じます。引き続きオンライン・現地訪問のハイブリッドで事業を実施しながら、自分と社会が繋がるきっかけを作り、それを通じて「課題解決への衝動」を育んでいきたいと思います。

事業の詳細はWEBサイトから

社会課題解決ワークショップ

https://crossfields.jp/service/workshop/

04 共感VRワークショップ

Empathy VR Workshop

CULTIVATE領域

共感VRワークショップ

VR/360度映像を通じて国内外の社会課題の現場を疑似体験し、課題の当事者への共感や課題解決への想いを育むプログラム

（企業向け及び教育現場向けに事業を展開中）

共感VR™

2021年度までの活動実績（累計）

導入企業数	8社
参加人数	56人
導入学校数	12校
参加生徒数	1,000人

事例紹介

経済産業省「未来の教室 STEAMライブラリー」事業で10のプログラムを開発

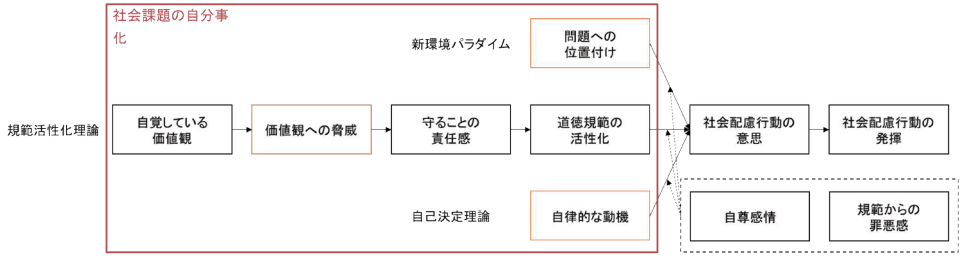
コンテンツ開発事業者として、中高生が社会課題を「体感」し、自分事化するための10のプログラムを様々な社会課題をテーマに制作。すでに全国の学校現場で活用が進んでおり、プログラムの更なる改良に取り組んでいます。

詳しくはこちら https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000014.000049241.html

スマホからはこちら

「社会課題の自分事化プロセス」の理論モデル構築

2021年度は「社会課題の自分事化に至るプロセス」の理論モデルも構築しました。本理論は法政大学大学院教授・石山氏とビジネスリサーチラボ社代表・伊達氏にご協力いただき制作したものです。2022年度は共感VR事業のみならず、全事業において本理論を用いた検証を進めていきます。



「社会課題の自分事化を通じた社会配慮行動促進の理論モデル」図。
個人の中で「社会課題の自分事化」がどのようなステップで育まれるかを仮説検証中。

Member's voice

共感VR事業リーダー
藤原 未怜

過去2年間の取組みから、VRを活用したプログラムで社会課題への「共感」を生み出すことに確かな手応えを感じています。今後の挑戦はこの手応えを定量的に示すこと。そして学校・企業に限らず、より多くの人にプログラムを届けていくことです。社会課題が解決され続ける社会の「土壌」を作っていくために、既存の枠にとらわれず、大きな広がりを目指していきます。

事業の詳細はWEBサイトから

共感VRワークショップ
https://crossfields.jp/service/vr/

05 ソーシャルセクター支援

Social Sector Empowerment

CO-CREATE領域

ソーシャルセクター支援

国内外のNPOや社会的企業との協働を通じ、社会的インパクトの創出を加速する事業。クロスフィールズが持つ様々なネットワークを活用し、社会課題解決に挑むリーダーを支援しています

10年間での協業実績

パートナーNGO/社会的企業の団体数	171 団体
活動国	12 カ国

事例紹介

交換留職プログラム（ベトナム×日本）

異なる国・地域で同じ社会課題に取り組む団体が交流し、学び合うプログラム「交換留職」を実施しました。アートを通じた障がい者支援を行うNPO法人エイブル・アート・ジャパン（日本）と社会的企業・Tohe（ベトナム）が参加。両団体のスタッフが互いの活動拠点を訪問し合い、異なるアプローチを学ぶことで自団体が取り組む社会課題解決のヒントを得ていきました。

（本プログラムはトヨタ財団の国際助成プログラムのご支援により実施しました）

海外団体とオンラインイベントを開催

長年協働してきた海外団体のリーダー2名を迎えた10周年記念イベントを開催。クロスフィールズ代表・小沼と新規事業開発リーダー西川が、Co-create領域における新たな協働の可能性などについて議論を深めました。

詳しくはこちら

https://note.crossfields.jp/n/n5307908993e7

スマホからはこちら

Member's voice

新規事業開発リーダー

西川 紗祐未

社会課題解決に取り組む様々な方との対話を通じて、Co-Create領域の探索に向けて奔走した1年でした。2年越しで実現した交換留職では、課題解決への関わり方について多くの示唆がありました。今後の挑戦は「現場に資源をおくり、ともに解決策をつくる」に繋がる事業を興し、頭も体も動かし続けながらクロスフィールズらしい課題解決の在り方を探索することです。道のりは長いですが、着実に前進していきます。

事業の詳細はWEBサイトから

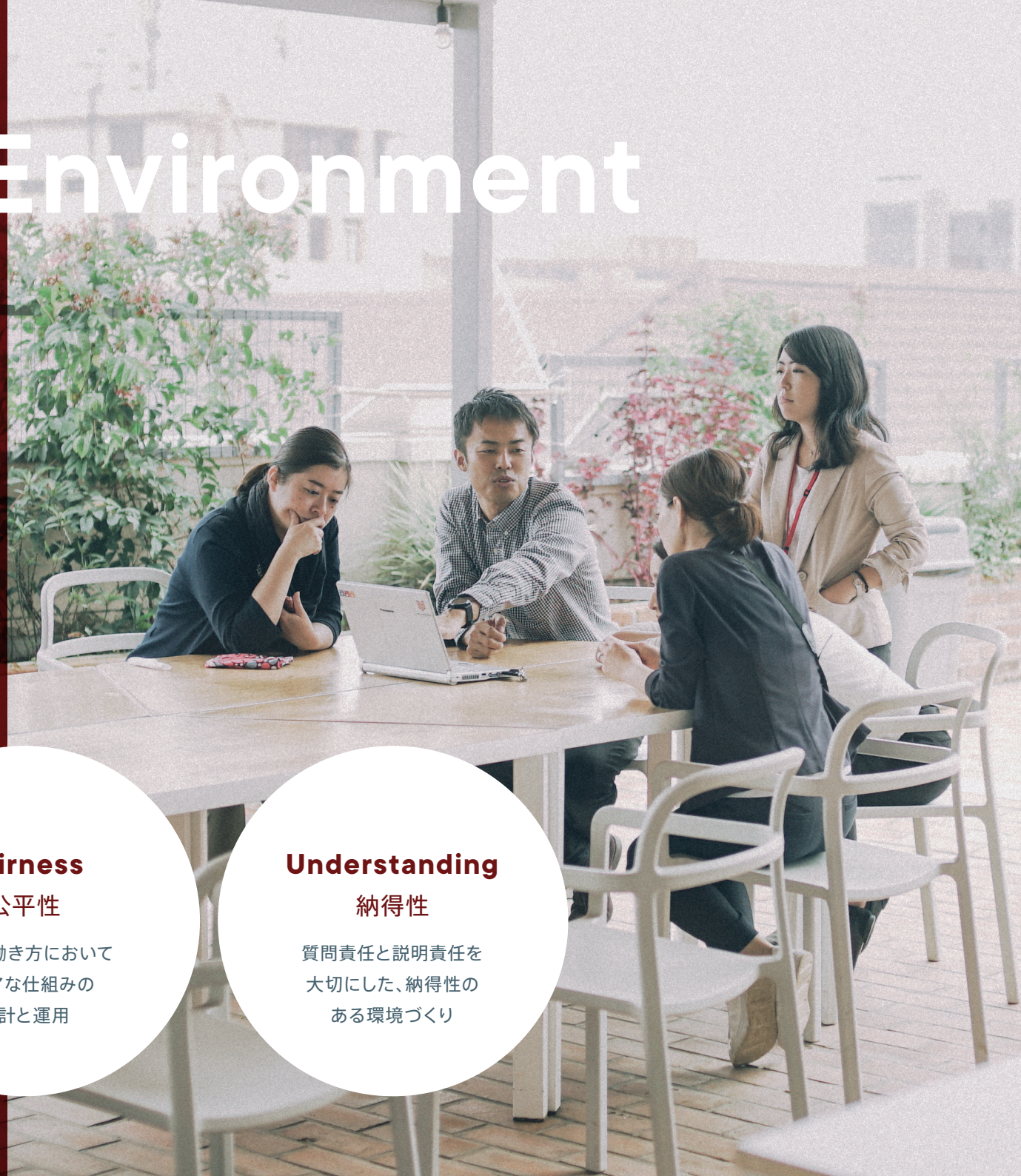
ソーシャルセクター支援

https://crossfields.jp/service/sse/

Working Environment

組織の取り組み

クロスフィールズは
持続的に社会インパクトを創出するため、
一人ひとりのメンバーが働きやすい
環境づくりに力を入れています。



新制度導入にあたり大切にしたこと

Transparency
透明性

透明性の高い
オープンな
コミュニケーション

Fairness
公平性

多様な働き方において
フェアな仕組みの
設計と運用

Understanding
納得性

質問責任と説明責任を
大切にした、納得性の
ある環境づくり

導入した新制度

フレックスタイム制度の導入

家族との時間も大切にしたい、副業やボランティアもしている、自己研鑽に励みたい・・・そんな多様な人材が揃うクロスフィールズだからこそ、それぞれが自分のペースで働けるよう、2021年度よりフレックスタイム制度を導入しました。

副業制度の導入

個人が実現したいことを後押しするために、副業制度をスタートしました。一人ひとりが多彩なフィールドで自己実現を進めています。

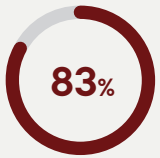
副業している
メンバーの比率

評価制度のアップデート

自律的な行動を促し、組織と個人のパーパス実現と成長を後押しするために、目標設定と評価の制度を新しいものにアップデートしました。

育児との両立環境の整備

メンバーには育児世代が多く、育休の取得者が増えています。メンバーそれぞれのライフスタイルを尊重し、働きやすい組織づくりを目指します。



育休取得率

男性 40% 女性 60%
育休取得者の男女比率

Member's voice

経営管理マネージャー
高橋 健

ビジョン・ミッションの刷新と並行してフレックスタイム・副業制度の導入、そして評価制度の刷新を担当しました。コロナ禍が一服し、留職の新興国派遣や現地訪問型のフィールドスタディなど対面プログラムも再開するなか、組織ではスタッフのお子さん誕生と育休・復職ラッシュを迎えています。組織ミッションとメンバーそれぞれのパーパス実現の両立をめざし、引き続き働きやすい組織づくりを進めていきます。

合宿でチームビルディングを実施

今年5月、次年度に向けたチームビルディングを対面で行いました。1日目は逗子でレクレーションをし、翌日は都内で議論を深めました。コロナ禍で業務が完全リモートになり、3年ぶりにリアルで実施した今回のチームビルディング。メンバーからは「ゆったりと仕事以外の話ができた」「普段とは異なる視点でディスカッションができた」などの声が届いています。

スマホからは
こちら

詳しくはこちら
https://note.crossfields.jp/n/n81f5397ca9c2

メディア掲載

2021年度は合計26回掲載されました。

新聞、雑誌、ラジオ　テレビ朝日、TokyoFM、AERA.など

テレビ朝日系列「サタデーステーション」に代表・小沼がコメンテーターとして出演。

AERA.
2022年2月28日号に掲載

Forbes
2022年5月号に掲載

国際協力キャリアガイド
2021-22に掲載

ウェブ

2021年6月16日	Study vally	【STEAM教育についてインタビュー】NPO法人クロスフィールズ
2021年6月22日	FNNプライム	内戦中のコンゴからきた難民の生活をVRで疑似体験　社会課題を考える新たな授業とは
2021年8月6日	DRIVE!	キーワードは「探索」と「自分軸」。迷いのなかで納得解を見つける方法ーNPOエグゼクティブコーチングの体験談よりー
2022年2月28日	コクヨManabiz	Cross×Campダイアローグ：組織の多様性を活かす「これからの大人のマナビ」の探究1
2022年3月30日	Study vally	世界の社会課題と出会い、探究していくきっかけを作る～NPO法人クロスフィールズ～

講演・イベント

2021年度は合計28回登壇しました。

トヨタ財団主催のオンラインセミナー

「国際協働プロジェクトの倫理と論理を考える」

事業統括マネージャーの原田と新規事業開発リーダーの西川が登壇。社会課題に取り組む団体と協働する際に大切にしていることや実際の経験などをお話しました。

HAPIC 2022

「市民社会が考える『新しい資本主義』」

代表・小沼がモデレーターとして登壇しました。当日はREADY FOR代表・米良氏、大阪大学・堂目氏、SALASUSU・青木氏と「市民社会が考える『新しい資本主義』」をテーマにクロストークを展開しました。

主催セミナー

今年度はオンラインセミナーを7回にわたって実施。のべ 900名以上が参加しました。

2021年10月1日

八木洋介氏と語る"オーセンティックリーダーシップ" —「自分らしさ」がリーダーの鍵？

2021年12月9日

サステナビリティトランスフォーメーション（SX）とは？ 〜企業による社会課題への本質的な向き合い方と、実践事例に迫る〜

2022年3月10日

10周年記念イベントvol.1
「10年目で感じた限界とビジョン刷新に至るまで」

2022年3月17日

10周年記念イベントvol.2
「社会課題を自分事化する人と文化の創り方」

その他のセミナー

2021年11月26日

リモート環境でも組織エンゲージメントを向上させる仕掛けとは？ 〜ユニリーバとPwCに聞く、先進事例とHR責任者の想い〜

2022年3月22日

10周年記念イベントvol.3
「社会を変えるために、NPOはどう変わり続けるか」

2022年4月26日

10周年記念イベントvol.4
「CrossFields 10th Anniversary Event "Toward a world where social issues continue to get solved"
（英語版イベント）

2021年度収支報告

(2021.6-2022.5)

(単位：円)

科目		2021年度実績
収入	事業収入	171,422,192
	受取会費	873,500
	受取寄附金	100,000
	その他収入	2,603,644
当期収入合計		**174,999,336**

支出	事業費	211,231,064
	管理費	8,860,632
	法人税等	70,000
当期支出合計		**220,161,696**

収支	当期純損失	45,162,360
前期繰越正味財産		**140,819,516**
次期繰越正味財産		**95,657,156**

注1) 事業費は、主に人件費、支払報酬料、地代家賃など　　注2) 管理費は、主に支払報酬料、地代家賃、支払手数料など

Beyond the Border,
Create the Future.

note

クロスフィールズ公式note

クロスフィールズの公式noteでは新しい取り組みの数々や、その裏にある一人ひとりの物語をお届けしています。ぜひご覧ください。

CROSS FIELDS

特定非営利活動法人クロスフィールズ
〒141-0031 東京都品川区西五反田3-8-3 町原ビル4F
TEL：03-6417-4804　E-MAIL: info@crossfields.jp
CROSS FIELDS

クロスフィールズ　検索

https://crossfields.jp